

水害を乗り越えて

つくば市立桜南小学校 五年 木村 葵

わたしは白いご飯が大好きです。朝、大き
たてのぴかぴか光ったご飯を口いっぱいお
ぼるだけで、一日の元気がわいてきます。

わが家で食べているお米は、常総市に住ん
でいる池田さんの田んぼからとれたお米です。
毎年、秋になると家族で稲かりやかけ干しを
手伝いに行くと、とれたてのお米をいただく
ています。しかし、今年のお米はいつもとは
ちがいます。味がちがうのではなく、重み
がちがうのです。

それは、昨年九月に起きた東日本こつ雨災
害によつて、常総市は大きなひ害を受けたか
らです。

「ここらは水が豊かで、土もこえている。手
をかけた米はうめえんだ。」

そう言いながら、田植えの時期から夏の暑い
日まで、池田さんが汗だくになりながら守り
ぬいてきたお米。でも、水がひいておると、

倉に置いていたしゅうかくしたばかりの新米は水をかぶさってくさってしまい、たおれた稲には土やところが付いていました。自まんのコンバインも使えなくなっていました。

それでも、池田さんは少しでもむだにしたくないと、土やからまいた稲を手でよけながら水田に残った稲を手でかり取りました。稲は、長い間土が付いたままにしておくと、呼吸が出きずにかれてしまったり、光合成で出来るでん粉の量が減って品質が悪くなってしまう。

まうのだそうです。近所の農家の方も来てくれて、わたしたち家族も手伝いました。いつもなら、かまで稲をかいた時に太陽のにおいがするの、この時はしませんでした。

それどころか、かり取るたびに、土ほこりがまいて目にしみるので、なかなか作業が進みません。それでも、みんなで協力して何とかしゅうかくすることができました。

過ぎてしま、た過去は変えられないし、自然の力に人間は勝てません。悲しいしくやし

いけれど、自分にできる事をせいーぱいする
ことが未来を変える第一歩なのだ。と池田さん
は教えてくれました。

わたしは、池田さんの働く姿、生きる姿を
間近で見て、お米は農家の人が心をこめて作
った命そのものなんだとありがたさを実感しま
した。そして、あきらめない強いバヤ地域の
人のきずな、大切さを学ぶ、努力を忘れない
人になりたいと思いました。お米にはたくさ
んの人の努力や愛情が詰まっています。その一
つぶーつぶが命をつないでいるのです。お米
を食べた時にほっとしたり、心があたたかく
なるのはそのためだったのです。

季節が変わり、今年も稲の穂がとんとん出
てきています。あの時、あきらめないでみん
なで協力してできた命です。どんなごちそう
にも負けないパワーがあふれています。
しゃうかくまで、後もう少し。がんばれ、
稲たち。今日も、これから、感しゃの気持
ちをこめてご飯をいただきます。